タシロラン
Epipogium roseum

ラン科

伊豆諸島 CR　環境省 NT

【形態・生態】
腐生植物。葉緑素を欠く。地下茎は地中の浅い場所に横に長く伸びる。茎は楕円形の根茎から出て、高さ 20 ～ 50cm、白黄色、まばらに膜質の鞘状葉が数個つく。しばしば群生する。5 ～ 7 月に白色花をやや多数、総状につける。萼片と側花弁は長さ 8 ～ 9mm。萼片は狭披針形、花弁は長楕円状披針形。唇弁は萼片と同長、広卵形で背面が著しくふくれ、内面に 2 条のとさか状の隆起がある。距は長楕円形で長さ 4mm である。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州 (関東南部)、九州、南西諸島 ; 台湾、中国 (南部)、インドシナ、インド、マレーシア、オーストラリア

【伊豆諸島における生育環境】
常緑樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
自生地が特定された際は、周辺も含めた広い範囲の樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 佐竹義輔ら (編), 1982a.

（執筆者 : 奥田重俊）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
1	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準
D

オサラン
Eria reptans

ラン科

伊豆諸島 VU　環境省 VU

【形態・生態】
多年草。偽球茎は狭長楕円形で赤褐色。葉は 2 枚で偽球茎に頂生し、狭長楕円形。葉柄下部に関節がある。花茎は 7 ～ 8 月に葉腋から出て、高さ 2 ～ 6cm、1 ～ 2 個の白い花をまばらにつける。背萼片および側花弁は広披針形、長さ 8 ～ 10mm。側萼片の基部に顎をつくる。唇弁は短く、広いくさび形で先は 3 裂し、側裂片は卵形、中裂片は円みを帯びた四角形である。樹上や岩上に着生する。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州 (紀伊半島)、四国、九州、南西諸島

【伊豆諸島における生育環境】
常緑樹林内の樹上または岩上に着生する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
園芸目的の採取のおそれがあるため、自生地の情報を秘匿することに加え、自生地の環境を現状のまま保全し、競合する植物を刈取りなどにより管理することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 佐竹義輔ら (編), 1982a.

（執筆者 : 奥田重俊）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
2	2	1	0	1	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	1	0	2	0	1

判定基準
E＋ACD

ナヨテンマ
Gastrodia gracilis

ラン科

伊豆諸島 EN　環境省 EN

【形態・生態】
腐生植物。塊茎は楕円形。茎は細く、円柱状で直立し、高さ 10 ～ 50cm、帯黄褐色、膜質の鱗片葉をまばらにつける。花序は長さ 2 ～ 5cm で、6 ～ 7 月に 10 個ほどの花を総状花序につける。苞は披針形で淡褐色、膜質。花は黄褐色、3 萼片が合着してつぼ状になり、基部の下側はややふくらみ、口部は 3 裂し、裂片の内側に小さい 2 個の側花弁がある。唇弁は卵状長楕円形で基部近くで 3 裂する。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州 (千葉、静岡、広島)、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】
常緑樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
自生地が特定された際は、個体群の詳細な調査を行い、周辺域も含め保全することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 七島花の会 神津島 , 2011a.

（執筆者 : 奥田重俊）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
1	3	0	0	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	3	0	0

判定基準
ACD

ハルザキヤツシロラン
Gastrodia nipponica

ラン科

伊豆諸島 EN　環境省 VU

【形態・生態】
腐生植物。落ち葉と似た色合いで目立たない。花期は 4 月。花数は 1 ～ 6 個。萼片は合着し筒状となり、橙色の小さな側花弁は背萼片と側萼片の裂け目を塞ぐように位置する。花筒の中の小さな唇弁は三角状広卵形で先端は赤く、側面は半円形に持ち上がる。ずい柱は唇弁よりやや長めで、両端が翼状に突き出て、下面は山型に張り出す。唇弁は萼片近くに下降しているが、ずい柱近くに立ち上がっているものがある。花筒の中を側面から見ると、唇弁の一部分とずい柱の山型に張り出した平らな部分がぴたりと重なる。嗅ぐと「くさや」に似た臭いがする。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州、四国、九州、南西諸島

【伊豆諸島における生育環境】
常緑樹林の限られた範囲にまばらに生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
自生地が少なく、個体数も少ないため、自生地の環境を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】
七島花の会 神津島 , 2008c.

（執筆者 : 石橋正行）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
1	0	1	0	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準
E＋ACD

クロヤツシロラン
Gastrodia pubilabiata

ラン科

伊豆諸島 EN　環境省

【形態・生態】
腐生植物。太く短い茎の先端で裂開した鱗片の中央から、1 ～ 3 個の花茎が立ち上がる。花期は 9 ～ 10 月。萼片が合着し大きく開き、唇弁は飛ぶ鳥のような形に 3 裂する。中央先端は尾羽のように突き出て、隆起線が 2 本並ぶ。両翼はやや半円状に持ち上がり、縁から隆起線にかけて白色の立毛が多い。ずい柱先端は角状に 2 裂し、側面は下向きに弧を描き、やや半円状に張り出す。下降していた唇弁が持ち上がりずい柱へ接近すると、ずい柱の張り出た部分は唇弁の両翼にほぼ重なり、立毛はその間の隙間を塞ぐ構造になっている。ずい柱先端の葯帽は白色、花粉塊は 2 個。実は長楕円形で先端は平ら、熟すと縦に裂開する。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州 (関東以西)

【伊豆諸島における生育環境】
常緑樹林の限られた範囲にまばらに生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
自生地を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】
七島花の会 神津島 , 2007b.

（執筆者 : 石橋正行）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
0	0	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準
E＋ACD

アキザキヤツシロラン
Gastrodia verrucosa

ラン科

伊豆諸島 CR　環境省

【形態・生態】
腐生植物。葉緑素を欠く。地下に紡錘状の塊茎がある。花茎は高さ 3.5 ～ 10cm、白色を帯び鱗片葉が数枚つく、下部では鞘状。花期は 9 ～ 10 月。短い花軸状に 2 ～ 7 個の花をつける。花は黄緑色、鐘状筒形で長さ 12mm、幅 8mm ほど。花後、果実期には茎は著しく伸びて、長さ 30cm ほどになる。

【分布の概要】
伊豆諸島、小笠原諸島、本州 (千葉以西)、四国、九州、南西諸島 ; マレーシア

【伊豆諸島における生育環境】
常緑樹林や竹林の林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
自生地が特定された際は、自生地の周辺も含めた広い範囲の樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 佐竹義輔ら (編), 1982a.

（執筆者 : 奥田重俊・畔上能力）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
1	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準
E＋ACD

アケボノシュスラン ※備考 (p. 213)

Goodyera foliosa var. *maximowicziana*　ラン科

伊豆諸島 NT　環境省

【形態・生態】
多年草。茎の基部は地表を這い、節から太い根を出す。上部は斜上し、高さ 5 ～ 10cm。葉は長楕円形卵形から卵形で数枚互生し、鋭頭、長さ 2 ～ 4cm、基部は葉柄に続く。花期は 9 ～ 10 月。花序は直立し、淡紅色の 3 ～ 7 花をやや偏ってつける。花は鐘形で長さ 8 ～ 10mm で、半開する。

【分布の概要】
伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州、南西諸島 ; 朝鮮半島

【伊豆諸島における生育環境】
落葉樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
自生地が特定された際は、自生地の周辺も含めた広い範囲の樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 七島花の会 神津島 , 2011a.

（執筆者 : 奥田重俊・畔上能力）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
1	0	3	4	3	0	11

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	3	0	0

判定基準
協議による

ハチジョウシュスラン（オオシマシュスランを含む）

Goodyera hachijoensis var. *hachijoensis*　ラン科

伊豆諸島 VU　環境省

【形態・生態】
多年草。高さ 10 ～ 25cm。葉は全面ビロード状の短毛が密生し、暗紫緑色で、中肋に沿って帯状の白線があるが、変異が大きい。花期は 9 ～ 10 月。花を総状花序につける。

【分布の概要】
伊豆諸島

【伊豆諸島における生育環境】
常緑広葉樹林の林床に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
樹林の伐採 (単木的なものを含む) や、園芸目的の採取が脅威となる。自生地を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】
佐竹義輔ら (編), 1982a; 八丈島インタープリテーション協会・植物ガイドブック作成部会 , 2007.

（執筆者 : 上條隆志）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
1	0	1	2	2	2	3

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	1	0	3	0	1

判定基準
E＋ACD

カゴメラン
Goodyera hachijoensis var. *matsumurana*

ラン科

伊豆諸島 EN　環境省

【形態・生態】
多年草。ハチジョウシュスランの変種。茎の基部は横に這い、高さ 10 ～ 25cm。葉は卵状楕円形で大きく、表面に白い格子状の網目が目立ち、基部は心形。花期は 9 ～ 11 月。多数の小花を穂状に付ける。花は淡紅色。背萼片はかぶと状。唇弁は白色で前方にわずかに突出する。距は短い。

【分布の概要】
伊豆諸島、九州、南西諸島 ; 台湾

【伊豆諸島における生育環境】
常緑樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
園芸目的の採取のおそれがあるため、自生地の情報を秘匿することに加え、自生地の環境を現状のまま保全し、競合する植物を刈取りなどにより管理することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 七島花の会 神津島 , 2011a.

（執筆者 : 奥田重俊）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
4	2	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準
ACD

ヒメミヤマウズラ
※備考 (p. 213)
Goodyera repens

ラン科

伊豆諸島 CR　環境省

【形態・生態】
多年草。茎の基部は匍匐し、先は直立する。花茎は高さ 10 ～ 20cm。葉は茎の下部に数枚集まり、長楕円状卵形から卵形、長さ 1 ～ 3cm、幅 7 ～ 15mm、葉面に白色網目状斑紋がある。花期は 7 ～ 8 月。淡紅白色の 5 ～ 12 個の半開する花を偏ってつける。花は長さ 4 ～ 7mm。唇弁内面は無毛。

【分布の概要】
伊豆諸島、北海道、本州 (近畿以北); 朝鮮半島、中国、ヒマラヤ、ロシア (サハリン、シベリア)、ヨーロッパ、北アメリカ

【伊豆諸島における生育環境】
針葉樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
自生地が特定された際は、周辺も含めた広い範囲の樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 佐竹義輔ら (編), 1982a.

（執筆者 : 奥田重俊・畔上能力）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
0	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準
協議による

ミヤマウズラ
Goodyera schlechtendaliana

ラン科

伊豆諸島 EN　環境省

【形態・生態】
多年草。茎は横に這い、先は直立し高さ 12 ～ 25cm。葉は広卵形でやや肉質、数枚下部に集まって互生する。花期は 8 ～ 9 月。淡紅色の 7 ～ 12 花を花茎の上半分の一方に偏ってつける。苞は披針形。萼片は狭卵形、鈍頭、花序、子房とともに縮毛がある。側花弁は広倒披針形、萼片より少し長く先端の内方に黄褐色の小斑がある。唇弁は萼片と同長で卵形、基部は胞状にふくれる。

【分布の概要】
伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州 ; 朝鮮半島、中国

【伊豆諸島における生育環境】
常緑樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
自生地が特定された際は、周辺も含めた広い範囲の樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 佐竹義輔ら (編), 1982a.

（執筆者 : 奥田重俊）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
0	1	2	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	1	0	2	0	1

判定基準
E+ACD

シュスラン
Goodyera velutina

ラン科

伊豆諸島 VU　環境省

【形態・生態】
多年草。茎は横に這い、先端は斜上し、高さ 10 ～ 15cm。葉は長卵形で全体に短毛が密生し、ビロード状の光沢がある。花期は 8 ～ 10 月。4 ～ 10 個の花をつける。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州 (関東南部以西)、四国、九州 ; 朝鮮

【伊豆諸島における生育環境】
やや高標高地の常緑広葉樹林に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
樹林の伐採や園芸目的の採取などが脅威となる。自生地を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】
大島自然愛好会 (編), 2000; 教育委員会『フィールド図鑑―御蔵島の植物・動物』制作部会 , 2007.

（執筆者 : 上條隆志）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
1	0	0	4	4	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	1	4	0	0

判定基準
E+ACD

ニイジマトンボ
Habenaria crassilabia　ラン科

伊豆諸島 EN　環境省

【形態・生態】
多年草。淡緑色の根生葉を 1 ～ 3 枚広げ、葉はやや薄い。これに花茎が立つ個体は、茎の下部に 3 ～ 5 枚の葉と苞葉を持つ。花期は 9 ～ 10 月と断続的に長い。花は淡緑色で、唇弁と前に反り返って背萼片と接していることが特徴的である。背萼片と側花弁が約 5mm の兜を形成し、その兜には 3 本の稜線が隆起している。

【分布の概要】
伊豆諸島 ; 中国

【伊豆諸島における生育環境】
低木が繁茂していない、常緑広葉樹と落葉広葉樹が混生したやや明るい樹林の林床に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
2012 年現在、1 ヶ所でしか自生が確認されていない。植生遷移が進行して林床が暗くなると消失するおそれがあるため、適度な人為かく乱を行って明るい林床を維持することが望ましい。また、自生地の保全とともに自生地以外での種の保存を検討することが望まれる。

【関連文献】
Yukawa, T. & M. Yagi, 2011; 七島花の会 神津島 , 2011a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
0	0	0	1	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準
D

（執筆者 : 八木正徳）

ムカゴソウ
Herminium lanceum var. *longicrure*　ラン科

伊豆諸島 VU　環境省 EN

【形態・生態】
多年草。楕円状球根がある。花茎は高さ 20 ～ 45cm。中部に 3 ～ 5 葉を互生する。葉はやや広線形で、長さ 8 ～ 20cm、基部は茎を抱く。花期は 6 ～ 8 月。淡緑色の花を茎の上方に密につける。唇弁は長さ 6 ～ 8mm、中部で 3 裂し、側裂片は長く、中裂片はごく短い。距はない。

【分布の概要】
伊豆諸島、北海道 (西南部)、本州、四国、九州、南西諸島 ; 台湾、中国 (東北部)

【伊豆諸島における生育環境】
湿った草地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
植生遷移の進行に留意し、自生地の湿地環境を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 七島花の会 神津島 , 2011a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
2	0	0	0	1	1	4

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準
E

（執筆者 : 奥田重俊・畔上能力）

カゲロウラン，オオスミキヌラン
Hetaeria agyokuana

ラン科

伊豆諸島 NT　環境省 NT

【形態・生態】
多年草。地下茎は地面を這い、節からひも状の根を出す。茎は直立し、高さ 10 ～ 25cm。葉は、茎の下部に 3 ～ 6 枚が集まり、楕円形、基部が鞘となる。葉面はビロード状の濃い色で縁は波打つ。花は白色、花序の花は 2 ～ 10 個で少ない。背萼片は紅色で広卵形、側萼片は被針形で長さ 5mm、重なり合う。唇弁は卵形で内側にかぎ状の突起がある。

【分布の概要】
伊豆諸島、四国 (高知)、九州南部、南西諸島 ; 台湾

【伊豆諸島における生育環境】
常緑樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
自生地が特定された際は、周辺も含めた樹林環境の保全をすることが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 七島花の会 神津島 , 2011a.

（執筆者 : 奥田重俊）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
3	1	1	3	0	0	12

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	7	1	0

判定基準
協議による

ヒメノヤガラ
Hetaeria sikokiana

ラン科

伊豆諸島 EN　環境省 VU

【形態・生態】
多年草。芽出しのころは茎の先端につぼみが塊となり、赤みを帯びた薄茶色の花茎が伸び、下から順に 5 ～ 10 数個の花が総状となる。花期は 7 月。子房は茎に沿って直立し、花被片は直角に曲がる。唇弁は上、背萼片は下に位置し、花被片はあまり開かない。唇弁は黄色で中央は淡褐色、基部は 2 裂し丸く膨らみ、先端も 2 裂し、うちわのように幅広い。萼片と側花弁は淡褐色。ずい柱は花冠の中に小さく立ち上がり、柱頭はお椀状に広く凹み、2 個の短柱状の突起物がつく。花粉塊は 2 個。細長く湾曲した尾状体が接着する。その下に小嘴体、花粉塊の尾状体、葯帽が位置する。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】
常緑樹林のやや明るい限られた範囲にまばらに生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
自生地が少なく、毎年開花するとは限らないため、新たな自生地の確認に努めると同時に自生地の周辺全体を保護していくことが望ましい。

【関連文献】
佐竹義輔ら (編), 1982a; 七島花の会 神津島 , 2010f.

（執筆者 : 石橋正行）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
0	0	2	0	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	2	0	0

判定基準
E＋ACD

ヤクシマアカシュスラン
Hetaeria yakusimensis

ラン科

伊豆諸島 EN　環境省 VU

【形態・生態】
多年草。葉柄は長く、互生する 3 ～ 5 枚の葉が茎の中央やや下に集まる。花期は 9 ～ 10 月。子房は斜めに立ち上がり、花は小さく上向きにつく。背萼片は薄い膜質の淡褐色で、半透明の側花弁と重なる。唇弁は白色で直立し、基部近くで背萼片とやや重なり、ずい柱を囲む。側萼片は倒卵形で内側に湾曲する。唇弁は中央でくぼみ、基部はやや膨らみ、先端は小さく突き出た上唇となる。ずい柱腹面に耳状突起が 2 個張り出し、お椀状に凹んだ柱頭に突起が 2 個張り出す。ずい柱の上半分は透明な黄色で、基部に向かって薄くなり白色となる。花後、子房は紡錘形に膨らみ赤褐色の果実となる。

【分布の概要】
伊豆諸島、四国、九州、南西諸島

【伊豆諸島における生育環境】
常緑樹林の比較的風通しの良い所。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
自生地を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】
佐竹義輔ら (編), 1982a; 七島花の会 神津島 , 2012e.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
2	0	0	0	0	0	3

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	2	0	0

判定基準
D

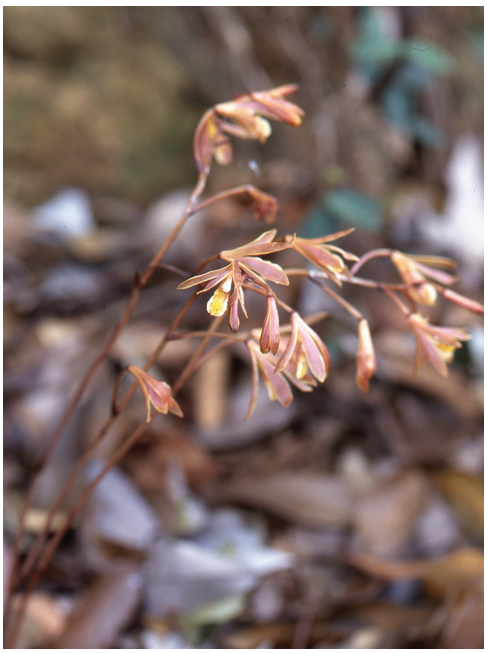
（執筆者 : 石橋正行）

ムヨウラン ※備考 (p. 213)
Lecanorchis japonica

ラン科

伊豆諸島 CR　環境省

【形態・生態】
腐生植物。葉緑素を欠く。地下茎はやや太くて硬く横に這う。茎は高さ 20 ～ 40cm で直立し、鞘状葉が数枚ある。花期は 6 ～ 7 月。花は数個つき淡黄褐色で長さ約 2cm、筒状半開、数個まばらにつく。唇弁内面に密に淡黄色の毛がある。稀に淡紫色の花もある。



【分布の概要】
伊豆諸島、本州、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】
常緑樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
自生地を特定し、周辺も含めた広い範囲の樹林環境を保全し、林床管理に留意することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 佐竹義輔ら (編), 1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
0	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準
協議による

（執筆者 : 奥田重俊・畔上能力）

ウスキムヨウラン
Lecanorchis kiusiana

ラン科

伊豆諸島 EN　環境省 NT

【形態・生態】
腐生植物。種殻をつけ枯れ残った隣から立ち上がる茎の先端に、つぼみが 5 ～ 6 個つく。花期は 6 月。花は花茎の途中で 1 個つけ、先端近くで 2 ～ 3 回枝分かれしてつき、下から順に開花する。上向きに半開した花被片は横向きになり、唇弁が垂れ下がる。唇弁は、先端が青紫色の毛状突起に覆われ、突起には微細な小突起が多数ある。萼片は透明感がありやや黄色がかった薄いこげ茶色で、側花弁も同系色だがやや薄い。ずい柱は先端近くで上下に分かれ、上側は長く下側は短い。間に葯帽と花粉塊が位置し、先端の裂片に包まれる。

（執筆者：石橋正行）

【分布の概要】
伊豆諸島、本州 (南部)、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】
常緑樹林内の、登山道沿いの限られた範囲に広く点在している。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
自生地を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】
七島花の会 神津島 , 2011a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
0	0	0	1	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準
E+ACD

クロムヨウラン
Lecanorchis nigricans

ラン科

伊豆諸島 EN　環境省

【形態・生態】
腐生植物。葉緑素を欠く。全体が暗紫褐色を帯びる。茎は細くて硬く、単一で、高さ 15 ～ 30cm。花期は 7 ～ 8 月。早朝に開花し、午前中に閉じる。茎頂に数個の花を横向きにつける。萼片、側花弁は倒披針形で淡黄褐色、先端部は淡紫色、唇弁は全縁で舟形、白色、先端部と内面は淡紫色で密に毛がある。

（執筆者：奥田重俊・畔上能力）

【分布の概要】
伊豆諸島、本州 (茨城以西)、四国、九州、南西諸島

【伊豆諸島における生育環境】
樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
自生地が特定された際は、周辺も含めた広い範囲の樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 佐竹義輔ら (編), 1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
1	0	0	1	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準
ACD

アワムヨウラン
Lecanorchis trachycaula

ラン科

伊豆諸島 CR　環境省 CR

【形態・生態】
腐生植物。葉緑素を欠く。ムラサキムヨウランと似る。茎の高さが 30 ～ 50cm あり、大きく、また茎には短い突起がまばらにはえる。茎は無枝か、しばしば 1 ～ 2 回まばらに分枝し、枝は伸長直立する。花期は 6 月ごろ。花は黄色、長さ約 15mm。萼片と側花弁は倒披針形で斜上する。唇弁は萼片と同長、下半部はずい柱と合着し、離生部は倒卵形で、内面に長毛を密生する。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州 (和歌山)、四国 (徳島)、南西諸島

【伊豆諸島における生育環境】
常緑樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
自生地が特定された際は、周辺も含めた広い範囲の樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 佐竹義輔ら (編), 1982a.

（執筆者 : 奥田重俊）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
0	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準
D

ギボウシラン
Liparis auriculata

ラン科

伊豆諸島 EN　環境省 EN

【形態・生態】
多年草。偽球茎は卵形。葉は 2 枚で広卵形、急鋭頭、基部は心形、縦の脈が浮きあがっており一見ユリ科ギボウシ属のようである。花茎は高さ 15 ～ 30cm、直立する。花期は 7 ～ 8 月。淡黄緑色で唇弁の中央部の溝に沿って暗紫色を帯びた花を十数個を密につける。苞は披針状三角形。萼片は線状長楕円形、鋭頭。側花弁は線形、鈍頭。唇弁は倒卵状くさび形で、円頭、萼片、側花弁とほぼ周長で 5mm、基部に 2 個の突起がある。

【分布の概要】
伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州 ; 済州島

【伊豆諸島における生育環境】
常緑樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
園芸目的の採取のおそれがあるため、自生地の情報を秘匿することに加え、自生地の環境を現状のまま保全し、競合する植物を刈取りなどにより管理することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 佐竹義輔ら (編), 1982a.

（執筆者 : 奥田重俊）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
1	1	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	2	0	0

判定基準
ACD

ユウコクラン
Liparis formosana var. *formosana*　ラン科

伊豆諸島 EN　環境省

【形態・生態】
多年草。高さ 20 ～ 40cm。コクランによく似るが、コクランよりも全体に大型である。葉は長さ 5 ～ 18cm、幅 3 ～ 9cm で、厚く、表面に光沢がある。花茎は頂生し、高さ 20 ～ 30cm で直立し、翼があり角ばっている。紫褐色の花数はコクランより多い。唇弁の先は円く基部の 2 個の突起も円形である。

【分布の概要】
伊豆諸島、九州 (南部)、南西諸島 ; 台湾、中国 (南部)、インド

【伊豆諸島における生育環境】
常緑樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
自生地が特定された際は、周辺も含めた広い範囲の樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 佐竹義輔ら (編), 1982a.

（執筆者 : 奥田重俊）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
0	1	1	2	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
1	2	0	0	0	0

判定基準
E

シマササバラン
Liparis formosana var. *hachijoensis*　ラン科

伊豆諸島 VU　環境省 VU

【形態・生態】
多年草。ユウコクランの島しょ変異型。多肉質の偽鱗茎と光沢のある葉が特徴。花期は 6 ～ 7 月。花は黒褐色、赤褐色、褐色、茶色、緑色、半透明白色と多様である。また、花被片の一部が緑色で 2 色が混在する個体も多い。ずい柱は前屈し、腹面に張り出す翼は大きい。ずい柱、葯帽とも、色に緑、黄色、半透明白色などの変異がある。下に向く唇弁中央のくぼみは深く、唇弁の上部の左右の縁は波打つように緩やかに切れ込む。唇弁基部の 2 個の突起は黒褐色で上端が平らだが、左右の形は不揃いで個体差がある。側萼片は 1cmを超えず、花は小さい。

【分布の概要】
伊豆諸島

【伊豆諸島における生育環境】
山腹の常緑樹林内を中心に一定の標高域に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
保全上の問題は特にないが、園芸目的で採取されることもあり、園芸目的の採取に対してマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 七島花の会 神津島 , 2009c; 七島花の会 神津島 , 2012c.

（執筆者 : 石橋正行）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
2	8	9	3	0	0	6

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
2	3	0	14	2	3

判定基準
E＋ACD

ジガバチソウ
Liparis krameri var. *krameri*　ラン科

伊豆諸島 DD　環境省

【形態・生態】
多年草。偽球茎は卵球形。葉は基部に 2 枚互生し、卵形から広卵形、縁に細かい波があり、網目模様は明らか。花茎は高さ 8 ～ 20cm。花期は 5 ～ 7 月。花茎上部に 10 ～ 20 個の花を穂状につける。花は淡緑色 または紫褐色があり、萼片、側花弁は線形、唇弁は狭倒卵形で、紫褐色縦筋が入り、中ほどで下方に折れる。

【分布の概要】
伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州 ; 朝鮮半島

【伊豆諸島における生育環境】
樹林内や岩上に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
園芸目的の採取のおそれがあるため、自生地の情報を秘匿することに加え、自生地の環境を現状のまま保全し、競合する植物を刈取りなどにより管理することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 佐竹義輔ら (編), 1982a.

（執筆者 : 奥田重俊・畔上能力）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
0	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準
協議による

ヒメジガバチソウ ※備考 (p. 213)
Liparis krameri var. *shichitoana*　ラン科

伊豆諸島 EN　環境省 EN

【形態・生態】
多年草。ジガバチソウの変種で、ジガバチソウと比べ全体が小型である。偽球茎は球形。葉は 2 枚あり、広卵形でやや鋭頭、葉脈に網目模様がある。花茎は高さ 5 ～ 10cm、5 ～ 7 月に 10 個以内の花をつける。花の色は淡緑色、または黒褐色と変異がある。苞は三角形。萼片は線形、長さ約 7mm。側花弁は反曲し、糸状。唇弁の先は急に曲がって下垂し、舷部は狭倒長楕円形、縁がわずかに外曲する。

【分布の概要】
伊豆諸島

【伊豆諸島における生育環境】
樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
園芸目的の採取のおそれがあるため、自生地の情報を秘匿することに加え、自生地の環境を現状のまま保全し、競合する植物を刈取りなどにより管理することが望ましい。

【関連文献】
高橋秀男 , 1971; 七島花の会 神津島 , 2011a.

（執筆者 : 奥田重俊）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
1	2	2	0	0	0	6

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	1	1	0	0

判定基準
ACD

クモキリソウ
Liparis kumokiri

ラン科

伊豆諸島 EN　環境省

【形態・生態】
多年草。葉は大きく 2 枚、長さ 5 ～ 12cm、幅 2.5 ～ 5.0cm、縁は波状する。花茎は直立し、高さ 10 ～ 20cm。花期は 6 ～ 8 月。花茎の上部に 5 ～ 15 花をつける。花は淡緑色時に暗紫色。苞は卵状三角形で鋭頭。萼片は狭長楕円形、鈍頭、長さ 6 ～ 7mm。側花弁は狭線形、鈍頭、萼片と同長。唇弁は反曲し、くさび状倒卵形、中央に浅い溝がある。

【分布の概要】
伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州、南西諸島 ; 朝鮮半島

【伊豆諸島における生育環境】
疎林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
自生地が特定された際は、周辺も含め、樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 佐竹義輔ら (編), 1982a.

（執筆者 : 奥田重俊）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
1	1	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	1	0	1	0	1

判定基準
E

コクラン
Liparis nervosa

ラン科

伊豆諸島 VU　環境省

【形態・生態】
多年草。花期は 6 ～ 7 月。ずい柱はやや前屈みに立ち、萼片と側花弁は水平に開き、唇弁はほぼ中央から下方に 180 度近く曲がる。背萼片の縁は丸く円筒形になり、ずい柱の背面に立ち上がる。側萼片は横向きにやや捻じれながら緩やかに曲がり、側花弁はずい柱の斜め後方に反る。唇弁は、左右の縁が鋭くとがり、中央のくぼみは浅く、基部の突起は透明か下半分が色づき三角形状で先端がとがる。ずい柱が黄緑色となる個体が多いが、先端がやや褐色に色づく個体や黒褐色になるなどの変異がある。ずい柱の翼はシマササバランほど広がらず狭い。果実は先端付近が最も幅広く、下端は徐々に細くなる。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州 (茨城以西)、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】
山腹から山頂まで生育範囲が広い。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
自生地を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】
七島花の会 神津島 , 2012c.

（執筆者 : 石橋正行）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
0	0	1	3	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	2	0	0

判定基準
E＋ACD

ヒメフタバラン
Listera japonica

ラン科

伊豆諸島 CR　環境省

【形態・生態】
多年草。茎は直立し、高さ 5 ～ 30cm、軟弱で四角形。葉は卵状三角形、やや鋭頭、基部は切形、長さ幅ともに 1 ～ 2cm。花期は 3 ～ 5 月。淡緑色に紫色を帯びる 2 ～ 6 花がまばらにつく。花被片は反曲し、長さ 2 ～ 3mm。萼片は狭卵形、鈍頭。側花弁は線状長楕円形。唇弁は長さ 6 ～ 8mm、くさび形で 2 深裂し、裂片は線状長楕円形で中部に汚黄色の T 字状の隆起がある。この仲間では最も早く開花する。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州 (宮城、山形以南)、四国、九州、南西諸島

【伊豆諸島における生育環境】
樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
自生地が特定された際は、個体群の詳細な調査を行い、周辺域も含め保全することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 佐竹義輔ら (編), 1982a.

（執筆者 : 奥田重俊）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
0	0	0	0	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準
D

ニラバラン
Microtis unifolia

ラン科

伊豆諸島 EN　環境省

【形態・生態】
多年草。球根は球形で径 5 ～ 8mm、根の先端につける。茎は高さ 10 ～ 40cm、葉は 1 葉あり、長さ 15 ～ 25cm。花期は 4 ～ 5 月。淡緑色花を 20 ～ 30 個、やや密につける。背萼片は広卵形、長さ約 2mm。側萼片は狭長楕円形、長さは背萼片より短い。側花弁は狭長楕円形。唇弁は長い舌状、やや肉質で基部の両側の縁に突起がある。さく果はやや卵形。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州 (千葉以南)、四国、九州、南西諸島 ; 台湾、中国 (南部)、フィリピン、マレーシア、オーストラリア

【伊豆諸島における生育環境】
海岸に近い日当りの良い草地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
自生地が特定された際は、個体群の詳細な調査を行い、周辺域も含め保全することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 佐竹義輔ら (編), 1982a.

（執筆者 : 奥田重俊）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
0	0	0	1	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	1	0	1	0	1

判定基準
E+ACD

アリドオシラン
Myrmechis japonica
ラン科

伊豆諸島 DD　環境省

【形態・生態】
多年草。茎の基部は這い、各節からむかご状の芽を出す。茎は無毛で高さ 5 ～ 10cm。葉は広卵形で柄があり、3 ～ 5 枚をまばらにつける。花期は 7 ～ 8 月。花は上部に 1 ～ 3 個つき、つぼ状で白色時に薄い桃色。子房は直立する。唇弁先端は広がり 2 裂する。

【分布の概要】
伊豆諸島、北海道、本州 (近畿以北)、四国

【伊豆諸島における生育環境】
落葉樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
自生地が特定された際は、個体群の詳細な調査を行い、周辺域も含め保全することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 佐竹義輔ら (編), 1982a.

(執筆者 : 奥田重俊・畔上能力)

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
0	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準
協議による

フウラン
Neofinetia falcata
ラン科

伊豆諸島 CR　環境省 VU

【形態・生態】
多年草。根は白く四方に広がる。茎はやや叢生し、葉は広線形、多肉質で硬く湾曲し、長さ 5 ～ 10cm、幅 7 ～ 8mm。花期は 6 ～ 7 月。花茎は長さ 3 ～ 10cm、下部葉腋から出て、2 ～ 5 花を総状につける。花は白色で、距は線形で湾曲し、長さ約 5cm。樹幹に着生する。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州 (関東南部以西)、四国、九州、南西諸島 ; 朝鮮半島、中国

【伊豆諸島における生育環境】
常緑樹林内の樹幹に着生する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
園芸目的の採取のおそれがあるため、自生地の情報を秘匿することに加え、自生地の環境を現状のまま保全し、競合する植物を刈取りなどにより管理することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 佐竹義輔ら (編), 1982a.

(執筆者 : 奥田重俊・畔上能力)

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
0	1	0	0	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準
ACD

ムカゴサイシン
Nervilia nipponica

ラン科

伊豆諸島 CR　環境省 EN

【形態・生態】
多年草。地下に小さな球茎がある。葉は花後に長い柄のある 1 枚を根生し、角ばった円形または心形で、多数の掌状脈と長柄がある。花茎は帯紫色、高さ約 10cm、花期は 5 ～ 6 月。筒状、紅紫色の 1 花を横向きに頂生する。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州、九州、南西諸島

【伊豆諸島における生育環境】
常緑樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
自生地が特定された際は、個体群の詳細な調査を行い、周辺域も含め保全することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 佐竹義輔ら (編), 1982a.

（執筆者 : 奥田重俊・畔上能力）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
0	1	0	0	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準
ACD

ヨウラクラン
Oberonia japonica

ラン科

伊豆諸島 EN　環境省

【形態・生態】
多年草。茎は長さ 1 ～ 4cm、束生、下垂する。葉は袴状をしており、扁平で多肉質、2 列互生し、長さ 1 ～ 3cm、幅 2 ～ 5mm、鋭尖頭。花期は 4 ～ 6 月。茎頂に長さ 2 ～ 8cm の花序をつけ、淡黄褐色の小花を多数密に輪生する。樹幹または岩上に着生する。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州 (宮城以南)、四国、九州、南西諸島

【伊豆諸島における生育環境】
高標高地の常緑広葉樹林に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
樹林の伐採 (単木的なものを含む) や、園芸目的の採取が脅威となる。自生地を現状のまま保全することが望ましい。自生地によっては、競合種の除去の検討も必要となる。

【関連文献】
佐竹義輔ら (編), 1982a; 教育委員会『フィールド図鑑―御蔵島の植物・動物』制作部会 , 2007.

（執筆者 : 上條隆志・畔上能力）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
7	3	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準
ACD

オオバヨウラクラン
Oberonia variabilis

ラン科

伊豆諸島 DD　環境省 CR

【形態・生態】
多年草。葉は肉質、扁平で２列に互生し、密生して重なり合う。ヨウラクランに似るが大型で、葉は長さ約 15cm、幅 5 ～ 8mm、花序もより長い。また花序の花の間隔がつまる。樹幹に着生する。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州 (和歌山)、四国、九州、南西諸島 ; 台湾、インドシナ

【伊豆諸島における生育環境】
常緑樹林内の樹幹または岩上に着生する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
園芸目的の採取のおそれがあるため、自生地の情報を秘匿することに加え、自生地の環境を現状のまま保全し、競合する植物を刈取りなどにより管理することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 七島花の会 神津島 , 2011a.

（執筆者 : 奥田重俊）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
0	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準
協議による

ウチョウラン ※備考 (p. 213)
Orchis graminifolia

ラン科

伊豆諸島 CR　環境省 VU

【形態・生態】
多年草。根茎は楕円状球形で、少数のひげ根がある。茎は生育環境によって斜上し高さ 7 ～ 20cm。葉は 2 ～ 3 枚、広線形、長さ 7 ～ 12cm、上部はやや湾曲し、基部は茎を抱く。花期は 6 ～ 8 月。紅紫色花を数個、傾けて咲かせる。萼片は 1 脈。唇弁は先が 3 裂、距は湾曲し長さ 1 ～ 1.5cm。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州 (関東以西)、四国、九州 ; 朝鮮半島

【伊豆諸島における生育環境】
湿った岸壁、時に人家の屋根などにも生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
園芸目的の採取のおそれがあるため、自生地の情報を秘匿することに加え、自生地の環境を現状のまま保全し、競合する植物を刈取りなどにより管理することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 佐竹義輔ら (編), 1982a.

（執筆者 : 奥田重俊・畔上能力）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
0	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準
D

コケイラン
Oreorchis patens

ラン科

伊豆諸島 CR　環境省

【形態・生態】
多年草。偽球茎が連珠状に連なる。葉は 2 枚根生し、披針形で先がとがり縦脈が目立ち、長さ 20 ～ 30cm。夏に一時枯れて、秋に新葉が出る。花茎は高さ 30 ～ 40cm。花期は 5 ～ 7 月。多数の黄褐色の花を総状花序につける。唇弁は約 1cm、白色で斑点があり距はない。

【分布の概要】
伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州 ; 朝鮮半島、中国、ロシア (カムチャッカ、サハリン、ウスリー)

【伊豆諸島における生育環境】
やや湿り気のある樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
園芸目的の採取のおそれがあるため、自生地の情報を秘匿することに加え、競合する植物を刈取りなどにより管理することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 佐竹義輔ら (編), 1982a.

（執筆者 : 奥田重俊・畔上能力）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
1	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準
D

ムカゴトンボ
Peristylus flagellifer

ラン科

伊豆諸島 CR　環境省 EN

【形態・生態】
多年草。茎は卵形の球茎から生じ、高さ 20 ～ 50cm。葉は茎の下半分に集まり、3 ～ 5 枚が互生、広披針形、上部のものは鱗片状。花期は 9 ～ 10 月。多数の花を穂状につける。花は淡緑色、径 5 ～ 6mm。背萼片は狭卵形でかぶと状になる。、側萼片および側花弁は斜卵形。唇弁は 4mm 位、基部近くで 3 裂し、中裂片は舌状、側裂片は細いひげ状になる。距は棍棒状で長さ 3 ～ 4mm、子房に沿って垂れる。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州 (千葉以西)、四国、九州、南西諸島 (奄美群島)

【伊豆諸島における生育環境】
日当りの良い湿地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
自生地を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 佐竹義輔ら (編), 1982a.

（執筆者 : 奥田重俊）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
1	0	0	0	0	0	2

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準
ACD

イヨトンボ
Peristylus iyoensis

ラン科

伊豆諸島 DD　環境省 EN

【形態・生態】
多年草。茎は高さ 10 ～ 25cm、地面に接し 5 ～ 9 枚の葉をロゼット状につけ、広倒披針形、長さ 3 ～ 7cm。茎葉は鱗片状で目立たない。花期は 8 ～ 10 月。花序は長さ 4 ～ 5cm で、上方に 5 ～ 12 花を総状にやや密生してつける。花は黄緑色、径 5 ～ 7mm。背萼片は広卵形でかぶと状、側萼片は斜卵形、側花弁は披針状卵形。唇弁は基部で 3 裂し、側裂片は糸状。萼片に 3 脈ある。距は短円柱形で長さ 1cm。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州 (千葉以西)、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】
湿った草地に生育するが、稀である。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
自生地を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 佐竹義輔ら (編), 1982a.

（執筆者 : 奥田重俊）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
0	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準
協議による

ガンゼキラン
Phaius flavus

ラン科

伊豆諸島 EN　環境省 VU

【形態・生態】
多年草。偽球茎は卵状円錐形で稜があり、長さ 3 ～ 5cm。葉は 3 ～ 5 枚で、狭長楕円形、長さ 30 ～ 50cm。花茎は偽球茎の基部から側出し、高さ 40 ～ 60cm、やや太く円柱形。花期は 5 ～ 6 月。5 ～ 18 花をつける。花は淡黄色、乾くと暗青色を帯びる。花被片はやや厚い肉質、狭長楕円形。唇弁はくさび状倒卵形、基部は筒状、先端は多数のひだがあり褐色を帯びる。距は長さ 7 ～ 8mm で後方に突出する。さく果は紡錘状で下垂する。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州 (静岡、紀伊半島)、四国、九州、南西諸島 ; 台湾、フィリピン、マレーシア、インド

【伊豆諸島における生育環境】
常緑樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
園芸目的の採取のおそれがあるため、自生地の情報を秘匿することに加え、競合する植物を刈取りなどにより管理することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 佐竹義輔ら (編), 1982a.

（執筆者 : 奥田重俊）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
1	4	0	0	0	0	2

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	1	2	0	0

判定基準
ACD

ツレサギソウ
Platanthera japonica

ラン科

伊豆諸島 CR　環境省

【形態・生態】
多年草。根はやや肥厚し、ひも状で横に伸びる。茎は高さ 40 ～ 60cm。葉は 2 ～ 5 枚互生し、長楕円形、長さ 10 ～ 20mm、下部の葉は背面に稜がある。白味を帯びる。苞は葉状。花期は 5 ～ 6 月。茎の上部に多数の白色花をつける。背萼片はかぶと状。唇弁は長さ約 15cm、基部両側に突起がある。距は長く、3 ～ 4cm で下垂する。

【分布の概要】
伊豆諸島、北海道 (西南部)、本州、四国、九州、南西諸島 ; 中国

【伊豆諸島における生育環境】
日当たりの良い草地や湿った樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
園芸目的の採取のおそれがあるため、自生地の情報を秘匿することに加え、競合する植物を刈取りなどにより管理することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 佐竹義輔ら (編), 1982a.

（執筆者 : 奥田重俊・畔上能力）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
1	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	1	0	0	0	0

判定基準
E+ACD

ヤマサギソウ
Platanthera mandarinorum var. *brachycentron*

ラン科

伊豆諸島 CR　環境省

【形態・生態】
多年草。根は肥厚し紡錘状。花茎は高さ 20 ～ 40cm、やや稜がある。下部の葉 1 枚が大きく、長楕円形で長さ 5 ～ 11cm、基部はわずかに茎を抱く。花期は 5 ～ 7 月。黄緑色小花を 10 個ほど穂状につける。萼片は広卵形。花弁は細く淡黄色。唇弁は細く長い。距は長さ 12 ～ 20mm で後部に曲がる。そう果は細く上向きにつく。

【分布の概要】
伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州 ; 朝鮮半島、中国、ロシア (サハリン)

【伊豆諸島における生育環境】
日当たりの良い草地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
自生地を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 佐竹義輔ら (編), 1982a.

（執筆者 : 奥田重俊・畔上能力）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
0	0	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準
E

ハチジョウチドリ
Platanthera mandarinorum var. *hachijoensis*　ラン科

伊豆諸島 VU　環境省

【形態・生態】
多年草。濃緑色の根生葉を 1 ～ 3 枚広げ、葉は厚く丸みを帯びて茎を抱いている。これに花茎が立つ個体は、茎に苞葉を持つ。花期は 3 ～ 5 月と断続的に長い。花は淡緑色で、長い舌のように見える唇弁と後ろに反り返った側萼片が特徴的である。ヤマサギソウの島しょ変異型。

【分布の概要】
伊豆諸島

【伊豆諸島における生育環境】
林道脇の斜面や草地、林縁など、やや湿った明るい環境に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
自生地の草地が高茎草本で覆われないように適度なかく乱管理を行うことが望ましい。自生地に近接して崩壊地や伐開地などが生じた場合、自生地が拡大する可能性もあるので、自然の植生遷移の進行を注意深く観察する必要がある。

【関連文献】
八丈島インタープリテーション協会・植物ガイドブック作成部会 , 2007; 教育委員会『フィールド図鑑―御蔵島の植物・動物』制作部会 , 2007.

（執筆者：八木正徳）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
0	0	1	2	2	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	1	0	5	0	1

判定基準
E＋ACD

オオバノトンボソウ
Platanthera minor var. *minor*　ラン科

伊豆諸島 EN　環境省

【形態・生態】
多年草。根は紡錘状で 3 ～ 4 本ある。茎の高さは 25 ～ 60cm、稜がある。葉は下方の 2 ～ 3 枚が大きく、長楕円形、上方の葉は次第に小さく披針形となる。花期は 6 ～ 7 月。黄緑色の 10 ～ 25 花が穂状につく。縁に細かな乳頭状突起がある。背萼片は広卵形。側萼片は狭長楕円形で、背萼片より長い。側花弁は半切卵形。唇弁は広線形。距は下垂し鈍頭。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】
二次林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
自生地を現状のまま保全し、下草の管理に留意することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 七島花の会 神津島 , 2011a.

（執筆者：奥田重俊）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
0	1	0	1	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準
ACD

ミクラトンボソウ
Platanthera minor var. *mikurensis*

ラン科

伊豆諸島 EN　環境省

【形態・生態】
多年草。オオバノトンボソウの変種。茎は高さ 25 ～ 60cm、稜がある。茎の下部から 2 ～ 3 枚の長楕円形の大きな葉をつけ、上方のものは小さく披針形となる。花期は 6 ～ 7 月。黄緑色の 10 ～ 25 花が穂状につく。花は基本種に比べ小型。背萼片は広卵形。側萼片は狭長楕円形で、側花弁は背萼片よりわずかに短い。唇弁は広線形、長さ 6 ～ 8mm。距は基本種に比べ著しく短い。

【分布の概要】
伊豆諸島

【伊豆諸島における生育環境】
二次林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
自生地を特定し、競合する他の植物を刈取りなどにより管理することが望ましい。

【関連文献】
教育委員会『フィールド図鑑 — 御蔵島の植物・動物』制作部会 , 2007.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
1	1	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準
D

（執筆者：奥田重俊）

ハチジョウツレサギ
Platanthera okuboi

ラン科

伊豆諸島 CR　環境省 CR

【形態・生態】
多年草。2 枚の葉が根生状になり、30 個前後の花が穂状に咲く。花期は 5 月。花被片が開き始めると、水平だった距は山型に弧を描き先端が下降する。側萼片は幅広く斜め下向きにやや反る。背萼片は三角形状で縁が丸みを帯び、ずい柱に覆いかぶさるが、次第に上向く。側花弁は内側にやや湾曲し、ずい柱を左右から覆う。唇弁は下向し、やや反り返り、基部は距の入り口となり、ずい柱へと続く。小嘴体の先端は半円状で、距の入口との間が柱頭となる。葯隔は半管状に湾曲し、両端の葯室は「ハ」の字型となり上端はやや接近する。葯室の一部は赤褐色に色づき、袋状になった下端の裂け目に花粉塊粘着体の先端が露出する。

【分布の概要】
伊豆諸島

【伊豆諸島における生育環境】
日当たりの良い草地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
採取によって自生地が消失しているため、厳重な保護が望まれる。

【関連文献】
七島花の会 神津島 , 2011a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
5	1	0	0	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	2	1	2	0	0

判定基準
ACD

（執筆者：石橋正行）

トキソウ
Pogonia japonica

ラン科

伊豆諸島 EN　環境省 NT

【形態・生態】
多年草。花期は 6 月。花は朱鷺色または白色で、朱鷺色の方が約 1.4 倍大きい。萼片は開き、側花弁は兜状。唇弁は 3 裂し、先端が斜め上に緩やかに湾曲し、やや垂れ下がる。赤紫色の中央裂片の縁は細く裂け、左右の裂片は赤紫色の筋模様が縦に走るが、白い花にはない。唇弁基部から左右裂片あたりまで、中央部が畝状に盛り上がり、基部から先端にかけて 3 ～ 4 列の突起列をなす。突起は順に長くなり、先端ではさらに長く毛状となる。ずい柱は長さ 1㎝前後の円柱状で直立し、柱頭は平で左右がやや丸みを帯びた楕円状。小嘴体は小さく、わずかに突き出る。上端の縁は小さな裂片となり、先端は葯帽となる。

【分布の概要】
伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】
貧栄養でやや乾いた草地や風衝地の低木林で、夏に雲霧に覆われる立地に群生する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
採取によって激減したため、園芸目的の採取に対してマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】
七島花の会 神津島 , 2009b; 七島花の会 神津島 , 2010f.

（執筆者 : 石橋正行）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～1000	～10000		不明
0	0	0	1	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準
E+ACD

ヤマトキソウ
Pogonia minor

ラン科

伊豆諸島 CR　環境省

【形態・生態】
多年草。葉は先端近くが幅広く、トキソウと形状がやや異なる。苞葉はトキソウより長く大きい。花期は 6 ～ 7 月。トキソウの花が終わる頃から咲き始める。花は上向きでほとんど開かず、赤紫色の唇弁先端が僅かに見える程度。唇弁は 3 裂。中央裂片はトキソウに比べると細長く、中央部の突起列は目立たず、毛状の突起も少なく、短い。花被片はほぼ同長でトキソウに比べるとやや細長い。子房は長く、花被片の長さの 2 倍以上ある。
花被片は白色と淡紅色 (花被片基部の色は濃い)。

【分布の概要】
伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】
日当たりの良い草地や、モウセンゴケが生育する岩場などに広範囲に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
自生地を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】
七島花の会 神津島 , 2009c.

（執筆者 : 石橋正行）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～1000	～10000		不明
1	1	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	1	1	1	0	1

判定基準
ACD

ナゴラン
Sedirea japonica

ラン科

伊豆諸島 CR　環境省 EN

【形態・生態】
多年草。根は長く伸び、茎は 2 ～ 6 葉を 2 列につける。葉は狭長楕円形、厚い肉質で光沢があり、表面の主脈が凹み、鈍頭。花茎は側生。6 ～ 8 月に淡緑白色の花を数個総状につける。萼片は長楕円形で鈍頭、側萼片の基部に褐紫色の横縞がある。側花弁は萼片と同形。唇弁は萼片と同長で、紅紫色の斑紋があり、3 裂し中裂片は倒卵状くさび形。距は前方に突き出る。花には芳香がある。スダジイなどの樹幹に着生する。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州 (紀伊半島、福井、隠岐)、四国、九州、南西諸島 ; 朝鮮半島 (南部)

【伊豆諸島における生育環境】
常緑樹林内の樹幹または岩上に着生する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
園芸目的の採取のおそれがあるため、自生地の情報を秘匿することに加え、つる植物など競合する植物を刈取りなどにより管理することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 七島花の会 神津島 , 2011a.

（執筆者 : 奥田重俊）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
3	0	0	0	0	0	2

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	2	0	0	0	0

判定基準
E+ACD

コオロギラン ※備考 (p. 213)
Stigmatodactylus sikokianus

ラン科

伊豆諸島 CR　環境省 VU

【形態・生態】
多年草。茎は高さ 3 ～ 10cm、基部の鱗片は小型。葉は中央より上に 1 枚つき、卵形。花期は 8 ～ 9 月。茎頂に淡緑色でわずかに紫色を帯びる小花を 2 ～ 3 個つける。苞は葉と同形で、同大。背萼片、側萼片ともに線形で膜質、基部に少数の縁毛がある。側花弁は線形、唇弁は円形で、基部には上下に 2 深裂し、さらに左右に 2 裂した付属体がある。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州 (和歌山)、四国、九州 ; 台湾

【伊豆諸島における生育環境】
常緑樹林やスギ林の林床に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
植林地や林道沿いなどに生育することから、自生地の保全に配慮した森林施業や道路管理を行うことが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 佐竹義輔ら (編), 1982a.

（執筆者 : 奥田重俊）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
0	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準
D

ヒメトケンラン
Tainia laxiflora

ラン科

伊豆諸島 VU　環境省 VU

【形態・生態】
多年草。偽鱗茎が連なり、先端に常緑の葉が 1 枚つく。葉は長楕円形で先端はとがり、深緑色で、葉緑素が抜けやや白くなった斑点が脈間に不規則に並ぶ。花期は 5 月。花は、唇弁の黄色と他の花被片の茶色の対比が鮮やか。萼片は三方へやや広がり、側花弁はずい柱を覆う。唇弁は大きく、3 裂した左右の裂片はやや湾曲してずい柱の左右に立つ。唇弁中央の低い隆起線の左右に太い隆起線が盛り上がり、ずい柱基部は唇弁基部と「間節」のように接着する。先端は葯室で、柱頭は楕円状にややくぼむ。葯帽は逆三角形で角が丸く、その両端は点状に赤紫に色づく。

【分布の概要】
伊豆諸島、四国、九州、南西諸島 (奄美群島)

【伊豆諸島における生育環境】
一定の標高以上の常緑樹林内と風衝地の低木林の林床に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
自生地を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】
七島花の会 神津島 , 2009b; 七島花の会 神津島 , 2012b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～1000	～10000		不明
1	0	0	0	0	0	4

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
1	1	0	0	0	1

判定基準
D

（執筆者 : 石橋正行）

ヤクシマネッタイラン
Tropidia nipponica var. *nipponica*

ラン科

伊豆諸島 DD　環境省 EN

【形態・生態】
多年草。地下茎は短く直立する。茎は高さ 15 ～ 30cm で無毛、細くて硬く、上部に 1 ～ 4 枚の葉がある。葉は卵状披針形で尾状鋭尖頭、基部は円形、縦の脈が多数ある。花期は 5 ～ 7 月。茎頂に短い総状花序を出し、白い花を 5 ～ 10 個つける。苞は卵状披針形で長さ 1 ～ 3mm、鋭尖頭。背萼片は狭倒卵形。側萼片は合着し、卵状舟形、基部に 2 個の竜骨がある。側花弁は披針形。唇弁は卵状披針形、先は反曲する。

【分布の概要】
伊豆諸島、四国、九州、南西諸島

【伊豆諸島における生育環境】
常緑樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
園芸目的の採取のおそれがあるため、自生地の情報を秘匿することに加え、競合する植物を刈取りなどにより管理することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 佐竹義輔ら (編), 1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～1000	～10000		不明
0	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準
協議による

（執筆者 : 奥田重俊）

ハチジョウネッタイラン
Tropidia nipponica var. *hachijoensis*

ラン科

伊豆諸島 EN　環境省 EN

【形態・生態】
多年草。ヤクシマネッタイランの変種である。ヤクシマネッタイランに似るが、草丈は 10 ～ 20cm と低く、葉の幅は広い。葉は長さ約 1cm。7 ～ 8 月に白い小さな花をつける。側萼片は長さ 5 ～ 6mm。唇弁は先端が扇状に広がる。

【分布の概要】
伊豆諸島

【伊豆諸島における生育環境】
シイ林などの常緑樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
園芸目的の採取のおそれがあるため、自生地の情報を秘匿することに加え、競合する植物を刈取りなどにより管理することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 佐竹義輔ら (編), 1982a.

（執筆者 : 奥田重俊）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
1	3	0	0	0	0	2

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	3	0	0

判定基準
ACD

トンボソウ
Tulotis ussuriensis

ラン科

伊豆諸島 VU　環境省

【形態・生態】
多年草。茎は高さ 15 ～ 35cm。葉は倒披針形で長さ 8 ～ 13cm、茎の下部に 2 枚互生する。また、茎の上部に少数の鱗片葉がある。花期は 7 ～ 8 月。穂状花序に淡緑色小花を多数つける。唇弁は白色で長さ 3 ～ 3.5mm、基部から 3 裂する。距は白色、前方に下垂し、長さ 5 ～ 6mm。さく果は円柱形である。

【分布の概要】
伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州 ; 朝鮮半島、中国、ロシア (ウスリー)

【伊豆諸島における生育環境】
やや湿った林床に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
自生地を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 佐竹義輔ら (編), 1982a.

（執筆者 : 奥田重俊・畔上能力）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
0	0	0	2	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準
E＋ACD

オオハクウンラン
Vexillabium fissum

ラン科

伊豆諸島 VU　環境省 VU

【形態・生態】
多年草。草丈は約 10cm。ハクウンランとよく似ており、形態的にやや大型である。葉は長さ約 1cm。7 ～ 8 月に白い小さな花をつける。側萼片は長さ 5 ～ 6mm。唇弁は先端が扇状に広がる。

【分布の概要】
伊豆諸島、本州 (千葉、神奈川、静岡)

【伊豆諸島における生育環境】
常緑樹林の林床に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】
自生地を含む樹林全体を保全することが望ましい。

【関連文献】
前川文夫 , 1971; 佐竹義輔ら (編), 1982a.

（執筆者 : 奥田重俊）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000		不明
1	1	0	0	0	0	8

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	1	1	0	0

判定基準
E＋ACD

【種名・学名などの準拠文献】

種子植物の分類体系は日本で普及している Engler の分類体系を採用し、被子植物は主に Melchior(1964)、裸子植物は Pilger & Werdermann(1954) に従った。シダ植物は岩槻 (1992) によった。なお、科内の種名の配列は学名のアルファベット順とした。

岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ . 平凡社 . 311pp.

Melchior, H., 1964. A. Engler's Syllabus der Pflanzenfamilien, 12th edition, Vol.2, Angiospermen. Gebrüder Borntraeger, Berlin.

R. Pilger & E. Werdermann, 1954. Gymnospermae. In: Melchior, H. & E. Werdermann, A. Engler's Syllabus der Pflanzenfamilien, 12th edition, Vol.1, Allgemeiner Teil Bakterien bis Gymnospermen. Gebrüder Borntraeger, Berlin.

【備　考】　レッドリスト改定時における評価の根拠など補足情報

和名	備考
※該当種は欄外参照	今回の調査では情報が得られなかった。絶滅した可能性が高いものもあると考えられる。
オオタニワタリ	青ヶ島と御蔵島以外の島では希少。
ハチジョウカナワラビ オオツルコウジ ハチジョウコゴメグサ ヒメジガバチソウ	新たに個体群が確認された。
ヘラオモダカ	国内外来種の可能性あり。
タイロモ	三宅島の 1983 年の噴火以後確認できないため、絶滅した可能性がある。
イズノシマホシクサ	一年生草本であり、かつ、消長が激しい。生育地の面積が少なく、生育地である湿地の乾燥化が進んでいる。
コウズエビネ	オオキリシマエビネとエビネの雑種だが、一代雑種ではない可能性があるため評価した。
アケボノシュスラン	ツユクサシュスラン (*Goodyera foliosa* var. *commelinoides*) を含む。

※　シチトウハナワラビ、ホウライハナワラビ、ゴジンカハナワラビ、アカフユノハナワラビ、ツルホラゴケ、セイタカイワヒメワラビ、フモトカグマ、ハコネシダ、クジャクシダ、クモノスシダ、コタニワタリ、オオバノヒノキシダ、ツクシイワヘゴ、ヒメカナワラビ，キヨズミシダ、ツクシイヌワラビ、ヒロハノコギリシダ、ヒメサジラン、ビロードシダ、ヤマミズ、タニソバ、オカヒジキ、フサザクラ、ボタンヅル、シロバナハンショウヅル、カワラサイコ、ヒロハクサフジ、ナツトウダイ、コショウノキ、タニタデ、ミシマサイコ、ウメガサソウ、ギンレイカ、ホタルカズラ、イヌコウジュ、イヌノフグリ、ツルニンジン、イズハハコ、アキノハハコグサ、ヤブレガサ、ヒルムシロ、ハマサルトリイバラ、キツネノカミソリ、ハナビゼキショウ、ヒロハイヌノヒゲ、ジングウスゲ、ヒメホタルイ、サイハイラン、ヒメミヤマウズラ、ムヨウラン、ウチョウラン、コオロギラン

【関連文献】

千葉県史料研究財団 (編), 2003. 千葉県の自然誌 別冊 4 千葉県植物誌 . 千葉県 . 1181 pp.
Ebihara, A., S. Matsumoto & M. Ito, 2009. Taxonomy of the reticulate *Vandenboschia radicans* complex (Hymenophyllaceae) in Japan. *Acta Phytotaxnomica et Geobotanica*, 60: 26-40.
Ebihara, A., 2009. Notes on the Distribution of the *Vandenboschia radicans* complex (Hymenophyllaceae) in Japan. *Bulletin of National Museum of Nature and Science Series B (Botany)*, 35: 71-89.
八丈島インタープリテーション協会・植物ガイドブック作成部会 , 2007. 八丈島の植物ガイドブック . 八丈島観光振興実行委員会 . 135 pp.
星野卓二・正木智美・西本眞理子 , 2011. 日本カヤツリグサ科植物図譜 . 平凡社 . 782 pp.
星野義延・野嵜玲児・磯谷達宏・前迫ゆり・上條隆志・小林伯領・渡部良樹 , 1995. 御蔵島原生自然植生域の生態学的研究 . プロ・ナトゥーラ・ファンド助成事業成果報告 .
いがりまさし , 1996. 日本のスミレ (山渓ハンディ図鑑) 増補改訂第 2 版 . 山と溪谷社 . 288 pp.
岩槻邦男 , 1992. 日本の野生植物シダ . 平凡社 . 311 pp.
Jotani, Y. & H. Ohba, 1968. Flora of Izu Islands 1. Pteridophyta (1). *Science Report of the Yokosuka City Museum*, 14: 42-61.
Jotani, Y. & H. Ohba, 1969. Flora of Izu Islands 1. Pteridophyta (2). *Science Report of the Yokosuka City Museum*, 15: 24-36.
Jotani, Y. & H. Ohba, 1970. Flora of Izu Islands 1. Pteridophyta (3). *Science Report of the Yokosuka City Museum*, 16: 25-29.
角野康郎 , 1994. 日本水草図鑑 . 文一総合出版 . 179 pp.
神奈川県植物誌調査会 (編), 2001. 神奈川県植物誌 2001. 神奈川県立生命の星・地球博物館 . 1584 pp.
加藤雅啓・海老原淳 (編), 2011. 日本の固有植物 (国立科学博物館叢書 11). 東海大学出版会 . 503 pp.
勝山輝男・支倉千賀子・小久保恭子 , 2011. 伊豆諸島青ヶ島の維管束植物 . 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), 40: 7-34.
環境庁自然保護局野生生物課 (編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 8 植物 I(維管束植物). 自然環境研究センター . 660 pp.
Kitamura, S., 1942. Expositions plantarum novarum orientali-Asiaticarum VIII. *Acta Phytotaxonomica Geobotanica*, 11: 266-271.
倉田悟・中池敏之 , 1987. 日本のシダ植物図鑑 5. 東京大学出版会 , 816 pp.
倉田悟・中池敏之 , 1990. 日本のシダ植物図鑑 6. 東京大学出版会 , 882 pp.
倉田悟・中池敏之 , 1997. 日本のシダ植物図鑑 8. 東京大学出版会 , 474 pp.
教育委員会『フィールド図鑑 — 御蔵島の植物・動物』制作部会 , 2007. フィールド図鑑 御蔵島の植物・動物 . 東京都御蔵島 . 239 pp.
前川文夫 , 1971. 原色日本のラン . 誠文堂新光社 . 495 pp.
牧野富太郎 , 1961. 牧野新日本植物図鑑 . 北隆館 . 1060 pp.
三宅島史編纂委員会 (編), 1982. 第二章 動物、第三章 植物 . 三宅島史 , pp. 15-88.
中池敏之・山本明 , 1997. 八丈島 (伊豆諸島) におけるハチジョウカナワラビ (オシダ科) の分布、生態、分類 . 千葉県立中央博物館自然誌研究報告 , 4: 121-124.
新島村 (編). 新島村史 資料編 I 別冊 動植物目録・自然関係資料 . 新島村 . 123 pp.
新島自然愛好会 (編), 2004. 新島・式根島の自然誌 . 新島自然愛好会 . 320 pp.
Nishida, M. & S. Kurita, 1980. *Ophioglossum parvum*, a new species from warm temperate zone of Japan. *Journal of Japanese Botany*, 55: 105-113.
大場達之 , 1975. ハチジョウイタドリ — シマタヌキラン群集 — 伊豆諸島のフロラの成立にふれて . 神奈川県立博物館研究報告 自然科学 , (8): 91-106.
奥山春季 , 1984. 日本野外植物図譜 (全 3 巻) 518 + 30, 589 + 32, 532 + 31 pp., 794 pls.　誠文堂新光社 .
大島自然愛好会 (編), 2000. 身近に見られる伊豆大島の植物 . 大島町 . 255 pp.
Sahashi, N., 1979. Morphological and taxonomical studies on Ophioglossales in Japan and the adjacent regions (3). Identity of *Sceptridium* Lyon in the Izu Islands. *Journal of Japanese Botany*, 54: 241-247.
Sahashi, N., 1980. Morphological and taxonomical studies on Ophioglossales in Japan and the adjacent regions (4). Comparative morphology of spores of some species in Ophioglossales. *Journal of Japanese Botany*, 55: 73-83.
Sahashi, N., 1983. Morphological and taxonomical studies on Ophioglossales in Japan and the adjacent regions (8). New taxa of *Sceptridium* in Isl. Oshima, the Izu Islands. *Journal of Japanese Botany*, 58: 240-247.
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫 (編), 1982a. 日本の野生植物　草本 I . 平凡社 . 305 pp.
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫 (編), 1982b. 日本の野生植物 草本 II 離弁花類 . 平凡社 . 318 pp.
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫 (編), 1981. 日本の野生植物 草本III 合弁花類 . 平凡社 . 259 pp.
佐竹義輔・原寛・亘理俊次・富成忠夫 (編), 1989a. 日本の野生植物　木本 I . 平凡社 . 280 pp.
佐竹義輔・原寛・亘理俊次・富成忠夫 (編), 1989b. 日本の野生植物　木本 II . 平凡社 . 305 pp.
里見信生・丸山尚敏 , 1962. 伊豆御蔵島植物目録 (一) 羊歯植物 . 北陸の植物 , 11: 89-93.
Serizawa, S., 1970. Taxonomical notes on Asian ferns (I). *Journal of Japanese Botany*, 45: 117-122.
芹沢俊介 , 1982. 日本産シダ植物雑記 (三). 植物地理・分類研究 , 30: 42-44.

芹沢俊介 , 2009. 日本産シダ植物雑記 (5). しでこぶし , 1: 81-101.
七島花の会 神津島 , 2007a. 七島花の会会報 , (16): 1-14.
七島花の会 神津島 , 2007b. 七島花の会会報 , (17): 1-11.
七島花の会 神津島 , 2008a. 七島花の会会報 , (20): 1-20.
七島花の会 神津島 , 2008b. 七島花の会会報 , (21): 1-10.
七島花の会 神津島 , 2008c. 七島花の会会報 , (24): 1-13.
七島花の会 神津島 , 2008d. 七島花の会会報 , (25): 1-14.
七島花の会 神津島 , 2008e. 七島花の会会報 , (26): 1-10.
七島花の会 神津島 , 2008f. 七島花の会会報 , (28): 1-10.
七島花の会 神津島 , 2008g. 七島花の会会報 , (29): 1-11.
七島花の会 神津島 , 2009a. 七島花の会会報 , (30): 1-11.
七島花の会 神津島 , 2009b. 七島花の会会報 , (32): 1-17.
七島花の会 神津島 , 2009c. 七島花の会会報 , (33): 1-12.
七島花の会 神津島 , 2009d. 七島花の会会報 , (34): 1-16.
七島花の会 神津島 , 2010e. 七島花の会会報 , (38): 1-16.
七島花の会 神津島 , 2010f. 七島花の会会報 , (39): 1-10.
七島花の会 神津島 , 2011a. 伊豆七島フィールドノート 神津島花図鑑 . 日本出版ネットワーク . 407 pp.
七島花の会 神津島 , 2011b. 七島花の会会報 , (44): 1-7.
七島花の会 神津島 , 2012a. 七島花の会会報 , (47): 1-16.
七島花の会 神津島 , 2012b. 七島花の会会報 , (49): 1-24.
七島花の会 神津島 , 2012c. 七島花の会会報 , (50): 1-24.
七島花の会 神津島 , 2012d. 七島花の会会報 , (51): 1-24.
七島花の会 神津島 , 2012e. 七島花の会会報 , (52): 1-30.
七島花の会 神津島 , 2013. 七島花の会会報 , (54): 1-27.
島袋敬一 (編著), 1997. 琉球列島維管束植物集覧 改訂版 . 九州大学出版会 . 855 pp.
鈴木貞雄 , 1996. 増補改訂版 日本タケ科植物図鑑 . 聚海書林 . 271 pp.
高橋秀男 , 1971. フォッサ・マグナ要素の植物 . 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (2): 1-63, Figs. 1-172.
山本明・中池敏之 , 1983. ハチジョウベニシダについて . *Bulletin of National Science Museum, series B(Botany)*, 9: 161-171.
Yukawa, T. ＆ M. Yagi, 2011. *Habenaria crassilabia* (Orchidaceae): A new record for the flora of Japan. *Bulletin of the National Science Museum Series B (Botany)*, 37(2): 95–99.